



社協だより

かこがわ

2025 May

5

No.289

編集・発行：社会福祉法人
加古川市社会福祉協議会

生活困窮者支援から

思いやり心温まる地域社会づくりへ



講演会の様子



フードドライブで寄せられた食料品

1月19日(日)に生活困窮者支援セミナーを開催しました。

当日はフードドライブ(加古川中央ライオンズクラブ主催)も開催されました。

寄せられた食料品は生活に困窮している方への支援や市内こども食堂などで活用させていただいています。

ご協力ありがとうございました。

詳しくは、4面をご覧ください。



もくじ

事業計画・予算概要……………	2・3	ボランティアナビゲーション……………	6
生活困窮者支援セミナー……………	4	社協の現場から……………	7
地域の虹……………	5	善意の日・善意銀行だより……………	8



社協では、福祉目標「ささえあい 地域でみまもる まちづくり～地域共生社会の実現を目指して～」を基に、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるまちの実現を目指し、事業を展開してまいります。

1 住民主体のお互いさまの地域づくり

生活支援体制整備事業

身近な住民同士のささえあいの地域づくり推進のため、市内12中学校区に生活支援コーディネーターを配置し、地域ニーズをはじめ、住民のささえあい活動や社会資源(人・物・情報)などの把握を進めます。

把握した地域ニーズや社会資源を情報システムなどで見える化し、関係機関で共有できるしくみづくりに取り組みます。

住民主体のささえあい活動と福祉事業所・企業などが実施する社会貢献活動をマッチングし、地域の課題解決に向けたネットワークづくりを進めます。

町内会連合会や地区民生児童委員協議会、ボランティア団体、企業など、多機関が参画するささえあい協議会の運営を通して、地域住民が安心して生活できる地域づくりを目指します。

2 認め合い、ささえあいの輪が広がる人づくり

学生のボランティア活動への参加促進

市内の学校と連携し、若い世代への福祉学習の推進に取り組むとともに、学生がボランティア活動に参加するきっかけづくりや養成に取り組めます。

ボランティア活動の活性化(関係団体との連携と情報発信)

こども食堂やボランティア・市民活動団体などの多様な関係団体と連携を深め、多くの市民がボランティア活動に参加できる体制づくりを進めます。

「ボランティアセンター LINE公式アカウント」によるボランティア活動情報を活発に発信し、広く市民がボランティア活動に参画できるきっかけづくりを提供していきます。



学生による共同募金街頭啓発

3 誰もが安心して相談できる支援ネットワークづくり

成年後見支援センター事業の拡充など(新規事業)

成年後見支援センター事業では、終活に関する相談として、エンディングノートの作成支援を実施します。また、独自事業として、法人後見事業を実施する予定です。

多様な機関と連携・協働した支援の仕組みづくり

総合相談や貧困対策支援など、既存の制度では対応できない課題に対して、今年度も多機関と連携・協働しながら、必要な支援を進めます。支援にあたっては、寄せられた善意の寄付を活用させていただいているものもあります。また、障がい者基幹相談支援センター事業では、昨年度に配置した医療的ケア児等コーディネーターによる相談支援を継続して実施します。

4 社会福祉協議会の機能強化に向けた基盤づくり

組織体制の強化

理事会、評議員会をはじめ、各種委員会の機能を強化するとともに、関係機関との連携を図ります。

財源の確保

会費制度の整備や善意銀行のパンフレット等を活用した広報啓発活動、共同募金運動への協力依頼のほか、自主財源の確保に向けた調査や研究をします。

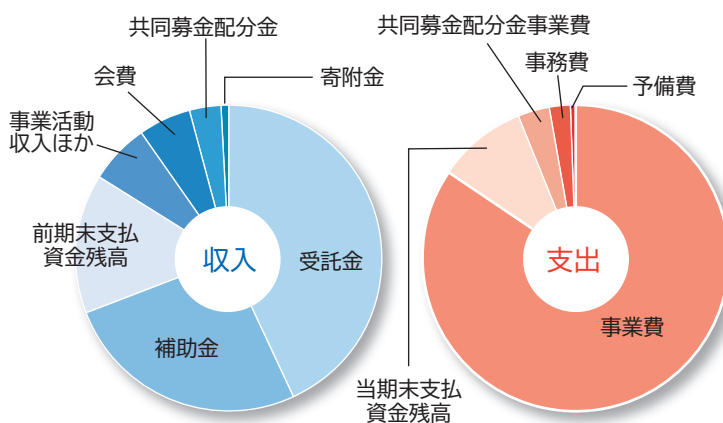
広報力の強化による社協活動のPR

「社協だよりかこがわ」の発行や多様な伝達手段の活用によるタイムリーな情報発信により、社協の役割と機能を明確にし、住民にとってより身近で信頼される組織を目指します。

令和7年度 予算概要



予算概要



収入	
・受託金	207,525 千円 (43.1%)
・補助金	126,121 千円 (26.2%)
・前期末支払資金残高	70,899 千円 (14.7%)
・事業活動収入ほか	30,348 千円 (6.3%)
・会費	27,481 千円 (5.7%)
・共同募金配分金	16,308 千円 (3.4%)
・寄附金	3,000 千円 (0.6%)
収入総額：481,682 千円	

支出	
・事業費	407,430 千円 (84.6%)
・当期末支払資金残高	45,362 千円 (9.4%)
・共同募金配分金事業費	16,308 千円 (3.4%)
・事務費	10,160 千円 (2.1%)
・予備費	2,422 千円 (0.5%)
支出総額：481,682 千円	

社協の活動は皆さんの会費によって支えられています。

社協は、地域の皆さんに支えられた民間の福祉団体です。住民の皆さんと力を合わせ、誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりを目指し、地域福祉を推進していく役割を担っています。住民主体の福祉活動を推進するため、社協会費へのご協力をお願いし、町内会を通じて1世帯あたり年間300円を集めさせていただいています。

皆さんからの会費は、ふれあいサロン支援事業、ボランティア育成事業、福祉学習などの社協が行う事業のほか、20%は各社協支部(25地区町内会連合会)へ助成し、地域の福祉活動を支える大きな財源となっています。

社協会費の他に、社協活動の主旨にご賛同いただける、個人、団体、法人を賛助会員として募集しています。 一口(年額)…3,000円 賛助会員の氏名、名称を広報紙・社協ホームページで公表をさせていただきます(非開示もできます)。皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

問 合 先 総務係 TEL:079(424)4318(代)

生活困窮者支援について住民の皆さんと考えました

令和7年1月19日(日) 生活困窮者支援セミナー

コロナ禍を経て日常生活をとり戻しつつある今もなお、「生活に困っている人」からの相談が多く寄せられていることから、生活困窮者支援に関する啓発を目的に住民の皆さんと共に考えるセミナーを加古川中央ライオンズクラブと共催で開催しました。

相談者に寄り添った関わり

市生活福祉課から、生活保護制度や生活保護には至らないものの生活に困窮する人への支援の現状について下記のとおり、報告がありました。



市職員による基調報告

- お金の問題を抱えている人が多いが、その事実だけではなく「なぜそのような状況になったのか」という背景に着目する。
- 相談者の困りごとは、お金だけではなく病気や障がい、家族の介護などの課題が背景にあることを理解する。
- 課題解決には時間がかかるが、相談者の状況に寄り添い一緒に問題を解決することが大切である。

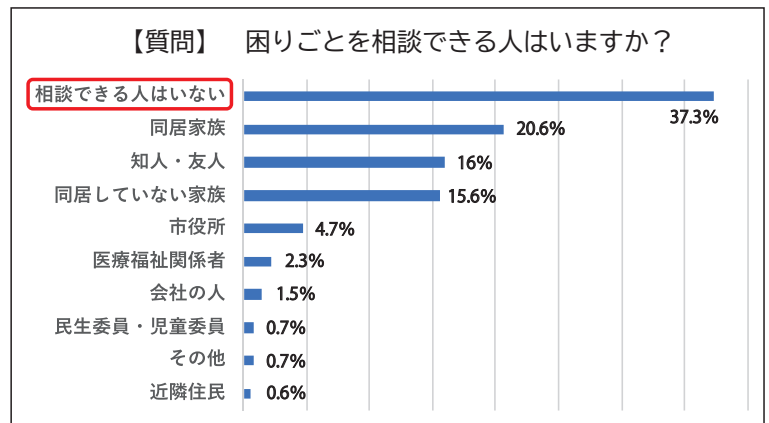
相談者を孤立させないために

社協からは、コロナ禍で相談が多くあった「新型コロナウイルス特例貸付」の状況やその後の支援について報告しました。

昨年、特例貸付借受人に対しアンケートを実施したところ、「相談できる人はいない」と回答した人が多く、生活に困窮している人の多くが誰にも相談できず孤立している現状にあります。

現在も一つひとつの相談に対し丁寧な対応を心掛けていますが、社協の支援だけでは解決できないことも多くあり、市役所や地域包括支援センター、民生委員・児童委員などと相談しながら支援しています。生活に困窮している人を孤立させないためには、「支援者自身が孤立しないこと」が大切だとお伝えしました。

アンケート結果の一部



好奇心を持って

講演会講師の加古川市出身の高岡 ^{たかおか} 達之 ^{たつゆき} さん（読売テレビ 報道局 特別解説委員）は、事例を交えて下記のとおりお話しされました。



高岡達之さんの講演会

- キーワードは「好奇心」。調べてみるとモノの見方や考え方が変わり、対応が変わる。
- 誰かの「困りごと」からヒントが生まれる。それを繋げていくことで新たなしくみや制度が生まれる。

生活困窮者支援においても、相談者の「困りごと」から支援が始まります。それを支える新たなしくみや制度を作り出すのは、市や社協だけでは難しく、住民や支援関係機関の理解が欠かせないことから、今回のセミナーを通して参加者の皆さんと一緒に考える機会となりました。

地域の虹

「地域の虹」では、ささえあいの地域づくりを進める市内12中学校区ごとの「ささえあい協議会」の取り組みや、地域のさまざまな住民主体の活動などについて皆さんにお届けしています。

今回は、尾上町ささえあい協議会(以下「協議会」という。)が進める防災に関する取り組みについてご紹介します。

協議会では、住民の方に尾上町に必要なささえあいの取り組みについてのアンケートを実施した結果、防災に関する取り組みを希望する住民の方が多いことがわかりました。

災害時に高齢者は、「どこに避難したらよいかわからない」という声をうけて、「尾上町風水害避難場所マップ」を作成し、令和6年10月に全戸配布しました。住民からは、「指定避難場所以外の避難場所を知ることができて良かった」などという声が聞かれました。

マップ作成後は、尾上町の各町内会で取り組みを進めていくこととなり、町内会連合会が下記の研修会を企画しました。



尾上町風水害避難場所マップ

防災研修会～避難所運営ゲーム(HUG)を体験しよう～

令和7年2月16日(日)尾上公民館にて、近年の甚大化する災害に備え住民が迅速に対応できるように、防災研修会を実施しました。



避難所運営ゲーム体験

※避難所運営ゲーム… みんなで避難所運営を考えるためのアプローチとして開発された図上訓練で、具体的で実践的な避難所運営を疑似体験できるゲーム



当日は64人の参加者が7グループにわかれて、NPO法人One by oneの防災士の指導のもと避難所運営ゲームを体験しました。参加者からは、「防災意識を高めて平時から備えていきたい。体験できて良かった」という声が聞かれました。

研修会を主催した尾上町町内会連合会林 ^{はやし} 靖二副会長は、「災害はいつか必ず起きる。日頃からの心構えが一番大事」と話されました。

問合先：地域福祉推進係 TEL：079(424)4318(代)

ボランティアナビゲーション

No.
119

加古川市学生ボランティア KSV 第3期生 **募集!**

～ボランティア活動をきっかけに新しい仲間と出会ってみませんか～

ボランティアセンターでは、高校生のボランティア活動へのきっかけづくりを目的に、加古川市学生ボランティア KSV(Kakogawa Student Volunteer以下「KSV」という。)を実施しています。

今回、KSV第3期生を募集します。

期 間：令和7年7月～9月
対 象：市内に在住・在学の高校生
内 容：



©かこちゃん



こども食堂 食事づくり

①	7月23日(水) 13:30～15:00	事前オリエンテーション ※参加必須です 講義「ボランティアって何だろう」
②	8月	ボランティア活動 興味のある活動に参加 (例：こども食堂のお手伝い、高齢者・障がい者との交流など)
③	9月7日(日)	全体プログラム ※参加必須です 障がい者との交流

参加費：無料

申込方法：申込みフォームよりお申し込みください。

申込締切：令和7年6月30日(月) ※定員になり次第締切

※希望者には「ボランティア活動証明書」を発行します。

※詳しくは7面問合先、ボランティアセンターホームページ、LINE公式アカウントよりご確認ください。



©ふくくん



申込みフォーム

～第2期生の活動紹介～

昨年度の第2期生は、事前オリエンテーションを通してボランティア活動の基礎知識や心得を学び、その後ボランティア活動19プログラムの中から興味・関心のある活動に参加しました。



第2期生

学生の声



- 「ありがとう」や「助かったよ」などの声をかけていただいたことや、地域の人々の温かさに触れたことが嬉しかった。
- 普段関わる機会の少ない人たちと一緒にスポーツを楽しんだことや、コミュニケーションを通して仲良くなれたことが、とても新鮮で楽しかった。



©ふくくん

社協の現場から ～加古川市ボランティアセンターのお仕事～



©がこちゃん

こんな仕事をしています

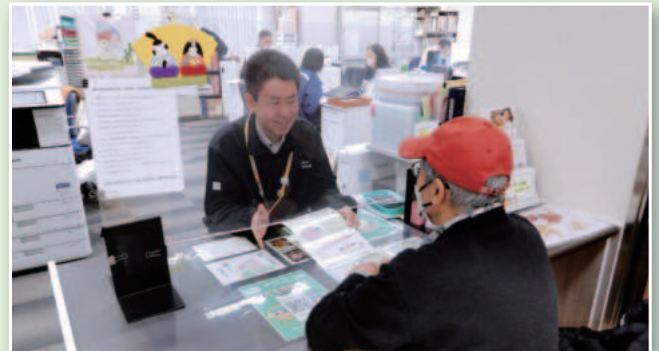
加古川市ボランティアセンターでは、広く市民へボランティア活動への参加を呼びかけ、「ささえあい 地域でみまもる まちづくり」を推進しています。

ボランティア活動相談・コーディネート

「ボランティアをしてほしい人」、「ボランティアをしたい人」、「ボランティア活動をしている人」からの相談に応じ、マッチング、コーディネートをしています。

日時：月曜日～金曜日9:00～17:00

(祝日・年末年始を除く)



ボランティア活動相談



ボランティア研修会

養成講座、研修会の開催

ボランティア活動の知識や技術を高める講座を開催しています。

また、地域住民が福祉について、より身近に感じてもらうきっかけづくりの研修会などを開催しています。



ボランティアによる小学校での点字指導

学校や地域での福祉学習支援

車イスや白杖、高齢者疑似体験セットなどの福祉学習器材を地域や学校へ貸し出しをしています。

要請に応じて、障がいのある当事者や指導ボランティアなどの派遣調整をしています。

ボランティア活動に関心のある人は、ボランティアセンターにご相談ください

ボランティア活動は特別な活動ではありません。一人ひとりができる時に、できることから始めていく活動です。誰もが住みよいまちづくりを目指し、身近なことからボランティア活動をしてみませんか。

【問合先】

加古川市ボランティアセンター

(まちづくり・ボランティア推進係)

TEL:079(424)4318(代) FAX:079(425)4711

メール:kakogawa-vc@kakogawa-shakyo.jp



ボランティアセンターHP



LINE公式アカウント

6月1日は「善意の日」!

1936年より兵庫県と兵庫県社会福祉協議会が中心となって、毎年6月1日を「善意の日」と定めています。

「善意の日」には、地域全体を明るく心豊かにするため、住民一人ひとりが善意や善行を進めることができるようにとの願いが込められています。



善意の花を「のじぎく」としています。

皆さんからの善意をお待ちしています!

社協では、地域の皆さんからの善意(寄付)をお預かりし、市内の福祉施設や個人、団体に届ける事業(加古川市善意銀行)を行っています。

詳しくは、下記へお問い合わせください。

寄付



活用

【問合先】総務係

TEL:079(424)4318 (土日祝・年末年始を除く9:00 ~ 17:00)

善意銀行だより



●預託状況一覧

(令和7年2月1日~令和7年3月31日取り扱い分) (敬称略)

氏名・団体名	金額	氏名・団体名	金額	氏名・団体名	金額
大団地朗友会	1,800	K . U	1,500	川柳ニューサロン	3,000
グラウンドゴルフ同好会	50,539	匿名	1,000	T. ヒロシ	1,000
加古川商工会議所 女性会	10,000	匿名	870	U . N	3,000
株式会社ライフクリエイト	2,000	チャッピー	2,000	第10回津和風杯参加者一同	15,000
チャッピー	3,000	加古川福音ルーテル教会	28,000	平岡公民館シニア08会	57,832
U . N	14,900	匿名	13,500		
ティエルブイ労働組合	3,000	匿名	1,500		
川柳ニューサロン	10,000	匿名	1,000		
橋本慎吾・真由美					

〈小 計〉 (21件) 224,441円 〈令和6年度累計〉 (137件) 5,999,555円

加古川市
善意銀行



©かこくん

たくさんの善意をありがとうございました。



©かこちゃん

社会福祉法人 加古川市社会福祉協議会

〒675-8577 加古川市加古川町寺家町177-12 (加古川市総合福祉会館内)
TEL:079 (424) 4318 (代) FAX:079 (425) 4711



ホームページ



フェイスブック



インスタグラム

■住民基本台帳人口 256,781 人 (男性 125,568 人 / 女性 131,213 人)
■年少人口 (14歳まで) 30,094 人 (男性 15,632 人 / 女性 14,462 人)
■高齢者人口 (65歳以上) 74,128 人 (男性 32,393 人 / 女性 41,735 人)
■高齢化率 28.87 % (令和7.3.1現在)